

共にしあわせ産みだす党 日本共産党 市議団ニュース

第2070号 2023年08月06日

日本共産党 根室市議団

根室市宝林町4-203 TEL0153-23-6023

※根室市障がい者計画（令和3年度～令和5年度）
根室市の障がい者福祉等に関する基本的な計画。各種施策を総合的かつ計画的に推進することを目的としている。
中長期の計画だが、根室市は下記の障がい福祉計画等と同じく3年間を計画期間にしている。

※根室市障がい福祉計画（第6期）
／ 根室市障がい児福祉計画（第2期）
根室市内における障害者等のニーズをふまえ、障害福祉サービス・相談支援・地域生活支援事業の提供体制の整備目標や見込み量を計画する。
平成30年度より「障がい児福祉計画」が追加された。

市内の障害福祉サービス事業所等を視察 根室市議会 文教厚生常任委員会

就労継続支援B型事業で、園内でシタケを栽培する「すずらん学園」の利用者さんと職員さん



写真提供：根室市議会事務局

いま根室市は来年度からの新たな障害福祉関係の行政計画（※）を立て直す時期を迎えています。
議会としても、あらためて地域の施設等の現状や課題等について学ぶために視察しました。

7月19日、27日に根室市議会文教厚生常任委員会は市内の障害福祉サービス等を実施する事業所のうち3か所を視察しました。各施設とも将来的な施設整備に向け、大きな課題があることをあらためて認識しました。

放課後児童デイサービス「くれよん」

障がい等をもった児童が放課後や学校の長期休暇に通う放課後等デイサービスを実施する「くれよん」は今年で開設から10年目を迎えます。当初6名から始まった利用登録者数はコロナ禍で苦勞しながらも、今年度48名が登録されています。

くれよんの課題として旧こうよう保育所の建物を市から無償貸与を受けていますが、50年以上経過しており、雨漏りや床が抜け落ちる等の老朽化が進んでいます。建て替えなど含め、今後どのような対応をしていくか現在、法人では内部検討を進めているそうです。

ただ資金面で言えば、適切なケアを実施するために国の最低基準の倍ぐらい人員を配置しているため、経営的には大変なようです。また国は社会保障抑制のためサービス報酬の削減を続け、施設側は大きな影響を受けています。全国的には45%の放課後等デイサービスが赤字となっています（福祉医療機構の調査2021年度）。

国に対して制度改善を強く求めるとともに、市内唯一の施設として今後の施設整備のあり方については、根室市としても事業者と一緒に考えていくことも必要と思います。

小沼理事長ら職員さん方から説明をうける
文教厚生常任委員会委員の議員さん



障がい者支援施設

「根室すずらん学園」



施設内の機械浴について説明する学園の支援課長さん

昭和59年に開設した根室すずらん学園は建物の老朽化だけでなく、約40名の入所者の居室が4人部屋のためプライバシー保護や感染対策の面から課題があり、施設の建て替えは長年の課題でした。

昨年、根室すずらん学園は新園舎建設の実施設計を行いました。現在地のグラウンド側に4階建て、全室個室の新園舎を建設する計画です。また大規模災害に備えて非常用の給排水・電力機能を確保し、福祉避難所としても稼働する構想です。

根室市は今年度、根室すずらん学園に対して6億5000万円の補助金を予算計上しています。しかし実施設計では近年の建築資材等の高騰により、総工費が当初の計画よりさらに増加しているそうです。問題は国の施設整備に対する補助金が内示で不採択とされたことです。厚労省が公表した「令和5年度社会福祉施設等施設整備費補助金」によると、道内で札幌市内含めて三か所しか採択されていません。全国各地からの補助金の申請に対して国の予算規模はあまりにも少な過ぎます。予算拡充を強く国へ求めていく必要があります。また今後、新園舎の建設に向けて根室市としても施設への支援をどうしていくのか、十分に検討していく必要があります。

障害者の「地域移行」は単純に施設や病院から移行するだけでなく、障害者自身の意思や選択が尊重されるように地域として受け皿を十分に準備する必要があります。根室すずらん学園は市内唯一の入所施設です。本人も両親等も高齢化する中で入所への市民ニーズは高く、こうした地域の施設はしっかりと守っていかなければならないと思われました。

一般社団法人 いーくつ

市街の住宅地に施設を構えるいーくつは2019年に開設しました。生活介護と短期入所、相談支援事業所を担っています。障害者の日中活動を支援する生活介護では、家庭的な雰囲気の中で、ドライフラワー作りなど様々な作業活動等も本人の意思を尊重しながらの支援を心掛けているそうです。生活介護と短期入所はともにほぼ定員一杯に近い利用状況となっているそうです。

また、市内唯一の相談支援事業所として相談専門員1名体制で、子どもを含め84名もの利用計画等を担当しているそうです。こうした専門職の体制は市内でも本場に少なく、大きな課題と思います。

また新たなグループホーム開設へは市民からの要望が高く、施設としても取り組んでいきたい考えですが、人材確保や自己資金面など、実現に向けてはまだハードルがあるとのことでした。

7月25日の暑い日、須崎和貴議員（会派無）に連れられ道々花咲線から宝林パークゴルフ場方面に抜ける市道沿いのゴミ拾いをしました。なんか「宴会でもあったの？」と思うくらい空缶やペットボトル等が大量に散乱しており、すぐ「ゴミ袋二つ分が一杯になりました。市担当課によると、この付近や跨線橋の周辺がいつも酷く、市民ボランティアの方などがよくゴミ拾いをして下さっているそうです。「街をきれいに」というだけでなく、この近くはクマ目撃の看板もあり、人間のゴミの味をクマが覚えたら大変です。」

